

令和4年度

授業改善プラン



中野区立中野東中学校

1 全体計画

学校の教育目標

知を磨き 徳を高め 体をつくる

令和4年度学校経営方針

基礎・基本の確実な定着を図り、生徒一人ひとりの可能性を広げる。

本校の捉える「確かな学力」

- 基礎・基本の確実な定着を図るとともに、知識や技能を総合的に活用する、思考力・判断力・表現力
- 主体的に学ぼうとする意欲や、未知のことを自ら学び解決しようとする意欲
- 多様な考えを尊重し、自らの考えを深めていこうとする人間力

【令和4年度指導の重点】

＜各教科＞

- ◆一人1台のタブレット端末を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びや、個に応じた学習を推進し、ニューノーマルの学習モデルの実現を図る。
- ◆数学と英語で少人数習熟度別指導を実施し、個に応じた指導の充実を図る。**1,3年生で技術・家庭科の少人数指導を実施する。**

＜道徳教育の指導の重点＞

- ◆教科に関連する内容や学校行事等とも関連させて指導し、考え議論する力を育む。
- ◆道徳授業地区公開講座を通して、**別業を見直し、教育活動全体で道徳教育の充実を図る。**

＜特別活動＞

- ◆学校行事や委員会活動を充実させ、**生徒の意見を取り入れた、主体的な**異学年集団での活動を推進する。また、幼稚園や小学校との連携を深め、他者を敬い、共に生きようとする心の育成に努める。

＜総合的な学習の時間＞

- ◆自ら課題を見つけ、学校図書館や一人1台のタブレット端末を活用して情報を収集し、自分の考えをまとめ、意見発表やプレゼンテーション等の活動を通して、自らの考えを発表する力を養う。

＜生活指導＞

- ◆礼儀や挨拶など基本的生活習慣の育成を図り、きまりを守り生活する態度を養う。
- ◆スクールカウンセラーや心の教育相談員との連携を図り、教育相談体制を充実させる。
- ◆**「学校いじめ防止基本方針」の共通理解を図り、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努める。**

＜キャリア教育の重点＞

- ◆自己理解を深め、自らの生き方、勤労観、職業観を深める取り組みを通して、主体的に進路選択できる能力を養う。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・Google classroomを活用し、課題の配信や、スプレッドシートなどで思考力を高める学習を行う。
- ・英語では Quizlet やカフトなどのアプリを積極的に活用し、個に応じた学習を進める。
- ・少人数指導を効果的に活用する。

教育課程編成上の工夫

- ・定期考査は、9教科・3日間で実施し、テスト前の学習に計画的に取り組ませる。
- ・**定期考査前に自習室を開放する。**
- ・夏季面談期間に、希望生徒を対象に補充講座・**自習室開放**を実施する。
- ・**夏季休業期間中に12日間の図書館開放を実施する。**

評価の工夫

- ・5月に学習説明会を実施し、各教科の年間指導計画と評価方法、評価基準を説明する。
- ・「学習状況、学習評価のお知らせ」を配布し、指導と評価の一体化を図る。
- ・評価研修会を実施し、共通理解を図る。

校内研究・研修の工夫

- ・**昨年度のICTの研究成果を受けて、全教職員が一人1台のタブレットを活用した授業を開発し、主体的・対話的で深い学びや個に応じた指導に効果的な指導方法を検討する。**
- ・**特別支援教室、帰国生徒受入校の校内研修を実施する。**

家庭・地域との連携の工夫

- ・学習説明会で家庭学習の仕方について説明し、自主的に学習に取り組ませる。
- ・学生ボランティア等を活用して個に応じた指導の充実を図る。
- ・学校公開を通して、保護者や地域に学習指導の状況を配信する。

◇学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

- ・個に応じた指導を推進するために、日常の補充的な学習支援や放課後学習教室、放課後自習教室、夏期学習補充教室等の取組を実施する。
- ・**英語、数学**の授業にTTで入り、学習の支援をする。

◇小中連携としての取組

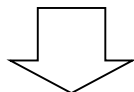
- ・**連携校との英語、数学の乗り入れ授業を実施する。**
- ・**英語(quizlet)などタブレット端末で活用できるアプリを小中で共有し、共同で活用していく。**
- ・**オープンキャンパスにおいて授業体験・部活動体験を行う。**

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
1年	区学力調査の結果の分析 ○ほぼすべての領域において目標値を上回っているものの「漢字を書く」の領域では、唯一目標値を下回っている。また「漢字を読む」「言葉の特徴や使い方に関する事項」も目標値を上回る程度にとどまっている。基礎知識の底上げを継続的に行う必要がある。 ○「話す・聞く・書く・読む」に関する正答率が高い。言語活動を通じた思考の深まりや方言力をさらに高めていきたい。	具体的な授業改善案（手だて） ○漢字の読み書きに代表される基礎知識の繰り返し学習を毎時間取り入れていく。さらに、定期的に習熟度チェックを行う。 ○電子黒板を効果的に活用し、視覚に訴える授業をする。 ○言語活動の充実を図り、自力思考→他者との共有、話し合いにより→表現活動の流れを繰り返し、思考の深まりを図る。 ○iPadを活用し、自分の考えをまとめたり、他者と共有するだけでなく、表現活動の1つとして積極的に活用する。 ○授業のプリントや対策プリントをオンラインでも配布し、家庭学習の一助とする。
	授業における課題 ○基礎知識を定着させ、基礎知識を活用した言語活動の充実。 ○言語活動で深めた思考を自分の考えとして表現する活動の充実。 ○主体的に取り組んだり、粘り強く取り組んだりする学びに向かう態度の育成。 ○iPadを効果的に活用した授業の実践。	
	区学力調査の結果の分析 ○すべての領域で目標値を上回っている。また、区や全国の平均値もほぼ全ての領域で上回っているものの、「我が国の言語文化に関する事項」「文学的な文章の内容を読み取る」に課題がある。 ○「話す・聞く・書く・読む」に関する正答率が非常に高い。言語活動を通じた思考の深まりや表現力をさらに高めていきたい。	
2年	授業における課題 ○基礎知識を定着させ、基礎知識を活用した言語活動の充実。 ○言語活動で深めた思考を自分の考えとして表現する活動の充実。 ○主体的に取り組んだり、粘り強く取り組んだりする学びに向かう態度の育成。 ○iPadを効果的に活用した授業の実践。	○漢字の読み書きに代表される基礎知識や語彙力の向上を図り、定期的に習熟度チェックを行う。 ○電子黒板を効果的に活用し、視覚に訴える授業をする。 ○言語活動の充実を図り、自力思考→他者との共有、話し合いにより→表現活動の流れを繰り返し、思考の深まりを図る。 ○iPadを活用し、自分の考えをまとめたり、他者と共有するだけでなく、表現活動の1つとして積極的に活用する。 ○授業のプリントや対策プリントをオンラインでも配布し、家庭学習の一助とする。
	区学力調査の結果の分析 ○すべての領域において目標値を上回っているものの「漢字を読む」「情報と情報との関係」に関連する項目が目標値を少し上回る程度にとどまっている。基礎知識の底上げとともに、「情報と情報との関係性に着目しながら自分の考えを深める活動を行っていききたい。 ○「話す・聞く・書く・読む」に関する正答率が目標値に対して非常に高い。言語活動を通じた思考の深まりや方言力をさらに高めていききたい。	
	授業における課題 ○基礎知識を定着させ、基礎知識を活用した言語活動の充実。 ○言語活動で深めた思考を自分の考えとして表現する活動の充実。 ○主体的に取り組んだり、粘り強く取り組んだりする学びに向かう態度の育成。 ○iPadを効果的に活用した授業の実践。	
3年	区学力調査の結果の分析 ○すべての領域において目標値を上回っているものの「漢字を読む」「情報と情報との関係」に関連する項目が目標値を少し上回る程度にとどまっている。基礎知識の底上げとともに、「情報と情報との関係性に着目しながら自分の考えを深める活動を行っていききたい。 ○「話す・聞く・書く・読む」に関する正答率が目標値に対して非常に高い。言語活動を通じた思考の深まりや方言力をさらに高めていききたい。	○漢字の読み書きに代表される基礎知識や語彙力の向上を図り、定期的に習熟度チェックを行う。 ○電子黒板を効果的に活用し、視覚に訴える授業をする。 ○言語活動の充実を図り、自力思考→他者との共有、話し合いにより→表現活動の流れを繰り返し、思考の深まりを図る。 ○iPadを活用し、自分の考えをまとめたり、他者と共有するだけでなく、表現活動の1つとして積極的に活用する。 ○個別最適な家庭学習の環境を整え、中学校全体での国語学習の総まとめとしての取り組みを行う。 ○授業のプリントや対策プリントをオンラインでも配布し、家庭学習の一助とする。
	授業における課題 ○基礎知識を定着させ、基礎知識を活用した言語活動の充実。 ○言語活動で深めた思考を自分の考えとして表現する活動の充実。 ○主体的に取り組んだり、粘り強く取り組んだりする学びに向かう態度の育成。 ○iPadを効果的に活用した授業の実践。	
	区学力調査の結果の分析 ○すべての領域において目標値を上回っているものの「漢字を読む」「情報と情報との関係」に関連する項目が目標値を少し上回る程度にとどまっている。基礎知識の底上げとともに、「情報と情報との関係性に着目しながら自分の考えを深める活動を行っていききたい。 ○「話す・聞く・書く・読む」に関する正答率が目標値に対して非常に高い。言語活動を通じた思考の深まりや方言力をさらに高めていききたい。	



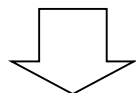
現状分析を受けて、3年間を通して国語科で身に付けさせたい力とその方策

- 全ての学習における基本となる漢字や語彙の習得に向けて、学習時間の確保をした上で、定期的な習熟度チェックを行うことや、漢字検定への挑戦を推奨する。
- 様々な文章に触れる機会を設け、自分の考えなどを積極的に表現したり、伝えあったりする言語活動の充実を図り、コミュニケーションを通じて、思考の広がりや深まりを得ようとする態度を身につける。
- 「話す・聞く・書く・読む」という4領域をバランス良く行い、自らの考えを表現する力を身につける。

(2) 社会科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
1年	- 基礎的な知識・技能の習得を進めるために、授業内でできる限り学習事項を定着させるとともに、家庭での学習習慣を付けていくことが課題である。 - 資料を読み取る力や、読み取った情報を元に思考・判断・表現する力を育むために、生徒が主体的に社会的事象について考察・表現する活動を取り入れていくことが課題である。		- デジタル教科書、電子黒板を用いた視覚支援を毎時間の中で行うとともに、学習事項の振り返りを家庭学習としてこまめに行うことで、基礎・基本の習得を図る。 - 資料を読み取る際の視点について丁寧に指導しながら、自らの意見を表現する機会を徐々に増やしていくことで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
2年	- 基礎的な知識・技能については、小テストや授業内での振り返りを通して習得が進んでいる。 - 自分の意見を記述したり、学習内容をまとめたりする際に、複数の情報を組み合わせたり論理的な文章で記述したりすることが難しい生徒が見られる。		- 自分の意見や考えを、根拠をもとに記述させるように指導を行い、既習事項の活用や見方・考え方を働かせた思考を促す。 - スプレッドシート・スライドなどを用いて意見共有や発表を行い、学習内容の理解を深めさせる。 - 資料提示などの場面で、デジタル教科書やクラスルームを用いて効果的に行う。
3年	「知識、技能」については、習得が進んでいる。ただし、生徒間の差が顕著に見受けられる。 「思考、判断、表現」については、習得が進んでいない。 - 生徒に記述／論述させる機会が少ない。		- 学習した内容をもとに自分の思考を深めるように、レポートの指導を行う。 - ワークシートに自分の意見や考えを記述させる。 - 資料に基づいて、社会的事象を捉えるように、継続的に指導する。 - 毎回の授業で、電子黒板やデジタル教科書などのICTを有効に活用する。

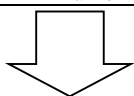


現状分析を受けて、3年間を通して社会科で身に付けさせたい力とその方策
- ICT機器を活用した視覚支援や、定期的な小テストや振り返りの実施を通して、基礎的な知識・技能を習得させる。 - 資料から情報を読み取る方法についてスモールステップで指導を行い、資料活用能力を高める。 - 生徒自身の考えを論理的に記述、論述する機会を継続的に設けることで、3年間を通して思考力・判断力・表現力を育成する。

(3) 数学科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
1年	区学力調査の結果の分析 ○領域に関して、すべての領域において目標値を上回っているものの「数と式」の領域では、目標値との差が最も少ない。基礎計算の技能の習得の底上げを今以上に図ることが課題である。 ○活用の問題の達成率が高い。より発展的な問題に取り組ませ、思考・判断・表現を向上させていきたい。	具体的な授業改善案（手だて） ○問題解決授業を行い、自力解決や話し合いなどの、解決プロセス踏む授業を積極的に行う。 ○基礎計算の繰り返し学習を毎時間取り入れていくこと。さらに、定期的に基礎計算チェックを行う。 ○デジタル教科書や電子黒板を効果的に活用し、視覚に訴える授業をする。 ○問題解決型の学習を積極的に行い、自力解決→話し合いにより、思考力を高める授業を展開する。 ○iPadを活用し、自分の考えをまとめたり、他者と共有できるようにする。 ○関数や図形の領域は、特にiPadを有効活用し、実際に図形を動かしたり、関数のグラフをかかせる等、定着を図る。 ○授業のプリントや発展プリントをオンラインでも配布し、家庭学習の一助とする。
	授業における課題 ○基礎概念を定着させることと、数学的な見方・考え方を伸長することを両立した授業の実施。 ○基礎概念を活用して考察する問題解決の時間を確保すること。 ○主体的に取り組んだり、粘り強く取り組んだりする学びに向かう態度の育成。 ○iPadを効果的に活用した授業の実践。	
2年	区学力調査の結果の分析 ○すべての領域で目標値を上回っているものの、「関数」と「データの活用」の領域は平均正答率が低くなってしまった。基礎的な知識や技能の定着を図る必要があると考えられる。 ○活用の問題の達成率が高い。より発展的な問題に取り組ませ、思考・判断・表現を向上させていきたい。	○問題解決授業を行い、自力解決や話し合いなどの、解決プロセス踏む授業を積極的に行う。 ○基礎計算の繰り返し学習を毎時間取り入れていくこと。さらに、定期的に基礎計算チェックを行う。 ○デジタル教科書や電子黒板を効果的に活用し、視覚に訴える授業をする。 ○問題解決型の学習を積極的に行い、自力解決→話し合いにより、思考力を高める授業を展開する。 ○iPadを活用し、自分の考えをまとめたり、他者と共有できるようにする。 ○関数や図形、データの活用の領域は、特にiPadを有効活用し、実際に図形を動かしたり、関数のグラフをかかせたり、スプレッドシートを使用してヒストグラムを作成する等を行い、視覚化することで定着を図る。 ○授業のプリントや発展プリントをオンラインでも配布し、家庭学習の一助とする。
	授業における課題 ○基礎概念を定着させることと、数学的な見方・考え方を伸長することを両立した授業の実施。 ○基礎概念を活用して考察する問題解決の時間を確保すること。 ○主体的に取り組んだり、粘り強く取り組んだりする学びに向かう態度の育成。 ○iPadを効果的に活用した授業の実践。	
3年	区学力調査の結果の分析 ○「関数」の領域で目標値を下回ってしまった。ほかの領域はすべて上回っているものの目標値との差が昨年より少なくなっている。関数分野の技能の習得の底上げを今以上に図ることが課題である。 ○主体的に学習に取り組む態度の結果が目標値より低くなっている。活用の問題を中心とした、生徒が主体的に取り組みたくするような課題設定が今後の課題である。	○基礎計算の繰り返し学習を毎時間取り入れていくとともに、個別に放課後の学習補充を行い、基礎基本の定着を図る。 ○問題解決授業を行い、自力解決や話し合いなどの、解決プロセス踏む授業を積極的に行う。 ○デジタル教科書や電子黒板を効果的に活用し、視覚に訴える授業をする。 ○iPadを活用し、自分の考えをまとめたり、他者と共有できるようにする。 ○関数や図形の領域では、iPadを有効活用し、実際に図形を動かしたり、関数のグラフをかかせたりする等、視覚で捉えさせながら定着を図る。 ○Google classroomを活用し復習動画や課題プリントを配信し、家庭学習の充実を図る。
	授業における課題 ○iPadを効果的に活用し、生徒が主体的に取り組む授業の実践。 ○主体的に取り組むとともに、粘り強く取り組む学びに向かう態度の育成。 ○基礎概念を定着させることと、数学的な見方・考え方を伸長することを両立した授業の実施。	



現状分析を受けて、3年間を通して数学科で身に付けさせたい力とその方策

- 課題解決型の授業や共同学習を通して、主体的に取り組む態度や粘り強く取り組む態度、既習事項を活用して考える力などを育成していく。また、iPadを活用し、考えをまとめたり、伝えたりする活動を増やしていく。
- 基礎・基本の確実な定着を目指し、毎時間の基礎計算練習、既習事項の繰り返し学習、定期的な単元確認テストなどを行っていく。

習熟度別少人数指導の充実に向けて

本校では、基礎の定着を図る必要のある生徒による人数がやや少ない学習集団である基礎・標準クラスと、習熟が早く発展的な指導を多く行うことができる生徒による人数がやや多めの学習集団である発展クラスを、教科部会で検討しながら2学級3展開、または1学級2展開で編成している。

習熟度別少人数指導を充実させるために、本校では以下のように授業を進めている。

① 基礎クラス

- ・教科書の他に、基礎の定着を図るワークシート、基礎的な事項の理解と定着を助ける教材、教具（主に、教科書のシミュレーション教材やパワーポイントなどのICT教材）をさらに用意する。

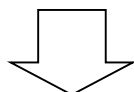
② 発展クラス

- ・教科書の他に、思考力・判断力をつけるためのワークシートを用意する。
- ・基礎クラス、発展クラスそれぞれの担当で連携を密にし、生徒の実態に応じた課題を用意している。

(4) 理科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
1年	・興味関心が高く、基本的な知識が身に付いている生徒も多いが、集中して説明を聞き、作業をすることを苦手とする生徒も多くいる。 ・実験結果や自分の体験から、自分で考察し、文章で表現したりグラフなどで説明したりすることが難しい。		・基本的な知識の確認や実験手順の説明をする時間を短時間に区切り、生徒の興味関心をもとに試行錯誤できる余剰の時間を多く設定する。 ・ICT機器を活用し、デジタルでレポートを作成させる。自分の考えをまとめていく過程で、試行錯誤する場面が多く、ICTを活用することで、考察を書く作業をスムーズにする。
2年	・現象に対して予想を立てることはできるが、実験結果などから科学的根拠に基づいて考察したり、文章や図で表現することに苦手がある生徒が多い。 ・定性的な理解は得意であるが、定量的に算出したり、グラフで示したりすることが困難である。		・実験結果をもとに、まとめや考察を正しく文章で表現したり、互いに発表しあうなどの言語活動を一層に行う。 ・科学的事象の理解のために、グラフや図を用いて、定量的な算出や分析を行う機会を増やす。
3年	・記述したり、予想したりする取り組みや、粘り強く問題に向き合うことができる。 ・積極的に仮説をたてて話し合いをして実験に臨んでいる。 ・実験誤差を小さくする工夫や、実験の手順、方法を分析・解釈・検討することに課題がある。		・引き続き話し合い活動を多く取り入れ、仮説→実験→考察→検討→まとめのルーティンを大切に、論理的思考力と表現力の向上に努める。 ・課題に対して、仮説を立て、その仮説を立証するための実験方法を検討する授業を実践する。



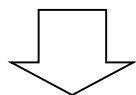
現状分析を受けて、3年間を通して理科で身に付けさせたい力とその方策

- ・各教材・単元について、身近な事象から、観察・実験材料をさがし、興味・関心をもたせる。
- ・理科の有用性について、生徒が感じられるような授業展開を行う。
- ・観察・実験を通して不足している体験を充実させ、身近な現象をより深く理解させる。
- ・協同学習と個別指導を組み合わせ、個に応じた指導をすすめる。
- ・基礎・基本の内容を定着させる。

(5) 音楽科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	・変声や小学校での学習状況等、個に応じた丁寧な指導。 ・感染症防止対策への対応に関わる年間指導計画の柔軟な実施と学びの確保。 ・これまでの様々な学習状況に応じた、表現の創意工夫とそのため必要な技能の取得。 ・音楽表現の多様性を理解し自分なりに考えながら、音楽のよさや美しさを味わって聴けるようにする能力の育成。そのための言葉で説明する活動の充実。	・主体的に音楽を表現するために、表現の授業において体を動かす活動を積極的に取り入れる。 ・幅広い音楽活動を可能にするために、効率的な授業展開を工夫して実施する。 ・授業で使用したワークシートや音源、動画をクラスルームでも共有し、個別学習を可能にする。 ・授業ごとに記入するワークシートや鑑賞プリントの内容の工夫により言語活動の充実を図る。
2年	・他者と関わりながら音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽に対する感性を豊かにすること。 ・感染症防止対策への対応に関わる年間指導計画の柔軟な実施と学びの確保。 ・これまでの様々な学習状況に応じた、表現の創意工夫とそのため必要な技能の取得と伸長。 ・音楽表現の多様性を理解し考えながら、音楽のよさや美しさを味わって聴けるようにする能力の育成。そのための批評する活動の充実。	・考えを他者と交流したり、感じ取ったことなどに共感したりしながら個々の学びを深められるような協働的な活動を充実させる。 ・幅広い音楽活動を可能にするために、効率的な授業展開を工夫して実施する。 ・授業で使用したワークシートや音源、動画をクラスルームでも共有し、個別学習を可能にする。 ・授業ごとに記入するワークシートや鑑賞プリントの内容の工夫により言語活動の充実を図る。
3年	・学習の意味や価値を自覚させ、主体的に活動することによる、音楽に親しんでいく態度の育成。 ・感染症防止対策への対応に関わる年間指導計画の柔軟な実施と学びの確保。 ・これまでの様々な学習状況に応じた、表現の創意工夫とそのため必要な技能の取得と伸長。 ・音楽表現の多様性を理解し考えながら、音楽のよさや美しさを味わって聴けるようにする能力の育成。そのための批評する活動の充実。	・題材や授業ごとの具体的な目標の提示と振り返りを行い、達成感を味わわせるとともに、先を見通して主体的に取り組めるようにする。 ・幅広い音楽活動を可能にするために、効率的な授業展開を工夫して実施する。 ・授業で使用したワークシートや音源、動画をクラスルームでも共有し、個別学習を可能にする。 ・授業ごとに記入するワークシートや鑑賞プリントの内容の工夫により言語活動の充実を図る。

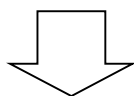


現状分析を受けて、3年間を通して音楽科で身に付けさせたい力とその方策
・感染防止対策への対応に柔軟に対応しながら幅広い音楽活動を実施し、既習の学習状況に応じた指導を行うことで、音楽の多様性等について理解させるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。 ・音楽や言葉によるコミュニケーションを図り、言語活動を充実させることで、音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 ・他者と協働して行う音楽活動や新しい音楽との出会い、さらにそれによってより深まった音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

(6) 美術科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
1年	・美術に興味・関心をもっている生徒が多いが、一斉指導での作業説明の理解力や、技術的な能力差が多く、個別指導を必要とする生徒も各クラス数名いる。 ・デザイン構想に時間を多く使い過ぎてしまう生徒がいる。		・一斉指導後の個々への声かけを増やし、生徒同士でも教え合いやすい環境作りをする。 ・授業外でも相談や次への課題を見付け出せるよう、ICTを活用した振り返りを行う。 ・デザイン構想の時間を、各自か多くとれるよう、家庭学習の時間も取り入れながら制作時間を確保する。 ・クラスメイトのデザインを共有し合うことで、互いの発想・思考力の向上を目指す。 ・昼休みや放課後に作品制作の補充授業を実施する。
2年	・全体的に美術に興味・関心をもっている生徒が多い。 ・技術的な能力は、定着してきているが、技能の差が生じ始めている。 ・「色」を混色してつくることを苦手としている生徒への対応を検討する必要がある。		・美術を知識技能としてだけではなく、自分を表現するツールとして活用し、課題を自分事として捉えられるよう導入を行う ・個々の差を減らすために、声かけを増やす。 ・「色」への感じ方や見え方の違いを確認し、色をつくる力の優劣を感じさせない、取り組みやすい活動にすることで、他者と自分のとらえ方の違いに素直に気付かせる。
3年	・技術的な基礎能力は、定着してきている。しかし、発想や構想の能力の成長がまだ不足している。 ・作品の完成度を上げていく中で、「この程度でよい」と考え、作品制作を終える生徒がいる。 ・立体的デザインのなかで、基本的な透視図法の造形方法や彩色に関して、理解に差があるため、個々への指導時間に差が出てしまった。また、図案に多くに時間をかけてしまったことで、制作時間が不足しているという意見があった。		・デザインの構想中に、生徒自身が主題を深められるよう、他者作品を鑑賞し合う時間を設けたり、協働的な学びができるよう工夫する。 ・見通しをもって作業できるよう、計画をたてやすいようなワークシートを使用する。

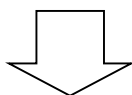


現状分析を受けて、3年間を通して美術科で身に付けさせたい力とその方策
・生涯学習を見通した美術鑑賞や作品制作で見方、感じ方を深める。 ・普段の生活の中に授業で養った美の感覚を取り入れることで生活が豊かになることを伝える。

(7) 保健体育科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	・中学生になり、はじめは授業で緊張している様子が見られたが、今では共に学び合おうとする姿勢で、授業に臨んでいる。しかし、思春期の入り口ということもあってか、男女がお互いの違いを認め、助け合って活動に取り組む様子はまだ少ないように感じられる。 ・教師の指示の出し方が不明瞭な場合があり、生徒に伝わらずに混乱を招く場面があった。また、提出物の提出状況が芳しくなく、生徒に提出するよう粘り強く呼びかけることが求められる。	・協働的な学習の場面を増やしていく。特に、男女混合で共に取り組み、学んでいく活動を増やし、相互理解につながるよう努める。（お互いの動きの様子を撮影し、それについて良い点・改善点を話し合う活動など） ・授業の予習・復習のために、Google Classroomを通じて、参考資料や授業で話した運動のポイントなどをまとめたものなどを配布する。また、毎時間の授業の取り組みの様子を、スプレッドシートなどを活用して自己評価することにより、学びに向かう力・人間性等を育む。
2年	・中学校入学当初からすべての単元で男女共習の形で授業を行っているため、様々な違いや差を越えて、良さを伸ばし、苦手を補い合い、共に学び合おうとする姿勢が見られる。 ・動画やGoogle スライドを用いて、学習の振り返り・まとめを行うことができている。特に、相手をイメージした単元のまとめを行うことで、言葉の選び方、資料の提示の仕方などアウトプットする力が高まっている。 ・自己やチームの課題について「できていない」場面や現象は捉えることができるが、その原因や「何を」「どうしたら」解決できるのかを関連付けて考えることが課題である。	・枠を定めないまめは生徒の主体的な学びにもつながると考えるので、今後も継続する。「する」だけでなく「見る」、「支える」、「知る」といった様々な視点から運動・スポーツに関わる機会を設け、まとめにも生涯スポーツにつながるようなものを取り入れられるようにする。 ・苦手な生徒、課題を感じている生徒へは即時性のあるフィードバックが効果的である。Google フォームやスプレッドシートを活用し、タイムラグのない実態把握に努め、常に授業改善を行っていく。また、分析が苦手な生徒には「よくある失敗例」のようなものを動画や写真等で示し、自分の姿と似ているものを選ぶことから始めさせるなど、視覚的なアプローチを試みる。
3年	・昨年度からの男女共修だったが、何のためらいもなく、様々な違いや差を越えて、良さを伸ばし、苦手を補い合い、共に学び合おうとする姿勢が見られる。 ・知識としてテストに表すことは得意だが、その知識を活用して、他者に自分の考えを伝えたり、アドバイスをしたりすることが苦手である。また、自己やチームの課題について「できていない」場面や現象は捉えることができるが、その原因や「何を」「どうしたら」解決できるのかを関連付けて考えることが課題である。	・協同学習や教え合いの場面を多く設定し、こちらで着目するポイントや失敗例をGoogle Classroomを通じて、いくつか挙げ、生徒がその場面を想像しやすいようにしていく。また、動画などを使い、視覚的なアプローチをすることで、想像力を高めていく。 ・見るポイントを役割分担して、課題に対してグループの中での責任をもたせる。また、スプレッドシートを活用することで、話すことが苦手な生徒も自分の意見を伝えることができているため、継続していく。

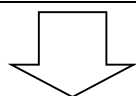


現状分析を受けて、3年間を通して保健体育科で身に付けさせたい力とその方策

各学年の現状から、保健体育の授業を通して、健康の維持増進、体力の向上はもちろんのこと、他者に自分の考えを伝える力を身に付けさせる。そのため、グループ活動・課題別練習など、話し合いの場面を多く設定していく。その中で、Google フォームやスプレッドシートを活用し、言葉で表現することが苦手な生徒も文章を通して他者に自分の考えを伝えたり、即時的にチームの仲間を賞賛したりと言語活動の充実を図っていく。また、良い例や失敗例などの動画をGoogle Classroomを通じていくつか挙げ、自分の動きと比較し、課題や改善策を見つけやすい授業の工夫を行っていく。

(8) 技術・家庭科
【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	【技術分野】 - 作業など集中力を持続させることが困難な生徒もいるため、持続できるよう指導を行う必要がある。 - 期日までの課題を提出する習慣が身につけていない生徒もいるため、スケジュールリングを身に付けさせる必要がある。 【家庭分野】 - 文章読解や意見の言語化が難しい生徒や学習の際に視覚や聴覚を重視する生徒もいる。そのため、ICTを用いて課題に取り組めるようにしたり、動画や音声などの視覚、聴覚で理解を深められるような授業が求められている。	【技術分野】 - 切り替えを重視した授業ができるよう教材選びを工夫する。 - 毎時間の振り返りを iPad で行い、ICT 機器の使用を習慣化する。 【家庭分野】 - 画像や動画を用いて内容の理解を促す。 - 生徒同士の共有でも iPad でスライドを作成するなど、言語だけではなく音声や画像も用いて意見を伝えられるようにする。
2年	【技術分野】 - 話し合い活動で積極的に参加できていない生徒もいるため、その生徒の意見も引き出しつつ活動に参加できるよう働きかける必要がある。 - 丁寧に作業できるが、時間を掛け過ぎてしまう生徒もいるため、見通しを持ち作業を行えるよう指導する必要がある。 【家庭分野】 - 持ち帰り課題への取り組みが難しい生徒やプリントを紛失してしまう生徒もいる。そのため、ノートでの管理を徹底するように呼びかけたり、ICT を用いたフォローができるように課題の管理・提出方法を工夫していく必要がある。	【技術分野】 - 自身の意見をまとめやすく、共有し易い ICT ツールを模索し、利用していく。 - タスクツールで、自身の作業の進捗とスケジュールを見比べ改善出来るようにする。 【家庭分野】 - 授業内にも課題に取り組めるように授業計画を行う。 - 授業プリントを授業内に保管できるように声かけを行う。また、授業のプリントを確認できるように Google Classroom 上に掲載する。
3年	【技術分野】 - 欠席生徒を含め、プログラミングでは1人1人の理解度に差が生まれやすいため、個別的な指導も必要となる。 【家庭分野】 - 隔週の授業時数の状況下で欠席生徒の進度に大きく差が出やすくなっている。ICT を用いて授業の振り返りができるようにしたり、動画などで各自の課題を解決できるような環境を整備する。	【技術分野】 - 欠席生徒を対象とした、授業のスライドやプリントなどの資料を Google Classroom 上に掲載する。また、授業の内容について質問できる設備を整える - 家庭学習でも復習したり、実際に動かせるような教材選びを行う。 【家庭分野】 - 欠席生徒向けに授業のスライドやプリントなどの資料を Google Classroom 上に掲載する。また、授業の内容について質問できる設備を整える。 「縫い」の製作過程を動画にし、Google Classroom 上に掲載する。また、白板に活動の流れの全体を掲示し、個々に応じた速さで実習に取り組めるようにする。



現状分析を受けて、3年間を通して技術・家庭科で身に付けさせたい力とその方策

- ものづくりや衣食住に関する実践的・体験的な学習を通して基礎的な知識・技術を身に付けさせるとともに、主体的に生活や制作の改善に取り組み、他者とかかわりながらより良い社会を築くために技術を適切に評価・活用する力を育む。
- ものづくりや生活を支える能力の育成を重視する視点から、創造・工夫する力や知的財産を尊重する態度、勤労観・職業観などの育成を目指す。

(9) 外国語科 【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善策（手だて）
1年	○英語の学習に興味・関心が高く、授業において意欲的に英語を使おうとする態度がある程度身に付いてはいるが、日本語使用が多く見受けられるときもある。 ○言語活動に積極的に取り組める雰囲気がある。 ○小学校での既習事項に対する各生徒の理解度・定着度に差がみられる。 ○「書く」活動において、生徒の成果物に単語のスペルミスや句読点・省略記号の書き忘れが多くみられる。	○授業は基本的に英語で行うこととし、英語を使う雰囲気を作る。 ○既習事項を活用させる言語活動を設定し、生徒がスパイラルな学習に取り組めるような指導を行う。 ○「聞く」「話す」「読む」活動をより充実させるとともに、単元のまとめの活動においてライティングの機会を増やす。また必要に応じて既習語彙のスペリングテストを行い、生徒の定着度を適宜確認する。
2年	区学力調査の結果の分析 すべての観点・領域の正答率において、目標値を大幅に上回っている。観点では「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」すべてにおいて大きく上回っている。領域では特に「聞くこと」「読むこと」の値が高い。目標値を上回ってはいるが、「語形・語法」の問題については他と比較すると値が低い。	具体的な授業改善案（手だて） ○English Rich な環境づくり・言語活動中心の授業を通して、Fluency を高めることを目指す。Accuracy は活用することを通して高めていく。 ○バックワードデザインによる指導計画により、学習の見通しを持たせる。 ○毎単元の終わりにパフォーマンス課題を設定し、知識・技能だけではなく、思考力・判断力・表現力の育成に努める。 ○デジタル教材を活用し、個別最適な語彙学習や文構造の学習をスパイラルに行う。 ○よいモデルを提示したり、お互いの発話や筆記から学びあったりする活動を設定する。 ○グローバルエラーの全体共有・修正を行う。
	授業における課題 英語の学習に興味・関心が高く、意欲的に英語を使おうとする態度が身に付いている。また、間違いを恐れずに安心して言語活動に取り組める集団の雰囲気があるが、正確さについては課題があり、言語材料や文構造がまだ十分に身に付いておらず、誤りの多い英文を話したり書いたりする生徒も一部いる。	
3年	区学力調査の結果の分析 目標値に対し観点では「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」全ての観点で、目標値を大きく上回る結果であった。領域でも「聞くこと」「読むこと」「書くこと」全てにおいて、目標値を大きく上回った。であった。内容別では「リスニング（対話文の応答）」「3文以上の英作文」「場面に応じて書く英作文」の値が特に高く、「語形・語法の知識理解」についての問題は値が低かった。	○語彙定着のためにデジタル教材を活用する。また、スペリングコンテストを定期的実施する。 ○帯活動でのリーディングトレーニングを継続的にを行い、初見文から概要をつかんだり、内容を説明する練習を行う。 ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確に設定した言語活動を継続し、適切な文構造を意識させ全体で共有したり、全体で修正を行う。 ○iPad を活用した自己表現活動を継続する。 ○自主学習課題などで読み手を意識した Writing を設定し、適切さ、正確さを意識させる。 ○ESAT-J に向け、帯活動の中で定期的にペアで状況を描写したり、考えや意見を述べる練習を行う。また、家庭学習では iPad を使用し ESAT-J NEWS に出ている教材の活用について指導をする。
	授業における課題 授業ではペア活動やグループ活動での言語活動に積極的に取り組み、前向きに学習に取り組んでいる。また、昨年度より家庭学習の習慣が定着してきている。語彙の定着に差があり、特に正確に書くことに関して苦手意識をもっている生徒がいる。	

現状分析を受けて、3年間を通して外国語科で身に付けさせたい力とその方策

英語を通じて、情報や考えなどを積極的に理解したり、表現したり、伝えあったりするなど、コミュニケーションを図ろうとする態度、また、単に英語の文法規則や語彙などについての知識を身に付けるだけではなく、実際のコミュニケーションを目的として、英語を運用することができる能力の基礎を養いたい。そのために、授業は言語活動を中心にデザインする。新言語材料は Form, Meaning の指導にとどまらず、Use の指導を十分に行う。また、既習事項を繰り返し活用させる指導を行い、スパイラルな学習を通して、Fluency・Accuracy の両方を高めることを目指す。

少人数指導の充実（実施校）に向けて

東京方式少人数・習熟度別指導ガイドライン(改訂版)に従い、習熟の程度を考慮した少人数学習集団を編成している(2学級3展開)。英語の学習について習熟の程度が多様な生徒がおおむね均等に混在する3つの学習集団を編成することで、リーダーが機能したグループワークによる生き生きとした言語化都度により、個々の生徒の発話量を増やし、コミュニケーション能力を効果的に向上させることをねらいとしている。

ALTの活用の工夫

外国語の背景にある文化に対する理解を深めること、日常的な話題や社会的な話題について英語で実際にコミュニケーションをおこなうこと、正しい外国語の音声を学ぶことなどを目的とし、活用している。

(10) 特別の教科 道徳

【中学校】

